

博物館に初もうで

2023年1月2日(月・休)～1月29日(日)

東京国立博物館は、2023年も1月2日(月・休)より開館し、恒例の正月企画「博物館に初もうで」を開催します。本企画は2023年で20年目を迎え、毎年ご好評をいただいております。

干支をテーマにした作品の特集や、長谷川等伯筆 国宝「松林図屏風」(展示期間:1月2日<月・休>～1月15日<日>)をはじめ、本館・東洋館の各展示室で、新年の訪れを祝して吉祥作品や名品の数々をご覧ください。

また、新春気分を感じられるいけばなの展示など、新春限定の企画も開催。新たな年のスタートは、ぜひ当館でお迎ください。



博物館に初もうで メインビジュアル→

特集 博物館に初もうで 兎にも角にもうさぎ年

1月2日(月・休)～1月29日(日) 平成館 企画展示室

2023年の干支は 癸卯、うさぎ年に当たります。うさぎと人との関係は古く、愛玩用あるいは狩猟の対象として長い年月をともに過ごしてきました。そうしたうさぎは文学や美術にも表現され、人々の暮らしを豊かに彩りました。

本特集では、「兎に角うさぎ」、「月のうさぎ」、「波に乗るうさぎ」、「うさぎはどこだ」、「うさぎと人と」の5つの切り口から、東アジアの造形作品に表されたうさぎの魅力に迫ります。

さまざまな姿、しぐさのうさぎ達をご覧ください、よい1年のスタートを切っていただければ幸いです。

1

染付水葵に兎図大皿

伊万里 江戸時代・19世紀 平野耕輔氏寄贈 東京国立博物館蔵
仲睦まじい2羽の兎がとても愛くるしい伊万里の大皿です



【主な展示作品】

※掲載作品はいずれも東京国立博物館蔵



2



3



4



5



6



7

<p>2</p>	<p>そめつけうさぎがたさら 染付兎形皿 御深井 江戸時代・19世紀</p>	<p>胴体を桃のような形にとり、正面を向いた兎で、くりぬかれた両目のまなざしが何とも印象的です。</p>
<p>3</p>	<p>うさぎすいてき 兎水滴 江戸時代・18～19世紀 渡邊豊太郎氏・渡邊誠之氏寄贈</p>	<p>水滴は硯で墨を擦る際に使う水を注ぐための容器です。兎をかたどった水滴は数多く伝わっており、人々に愛好されたことがわかります。 兎の水滴は、本特集で5点、本館13室でも4点展示されますので、あわせてご覧ください。</p>
<p>4</p>	<p>げっきゆうはちりょうきょう 月宮八稜鏡 中国 唐時代・8世紀</p>	<p>背面に月で兎が仙薬をつく姿が表されています。(お餅ではありません。)</p>
<p>5</p>	<p>かじしやうぞくこんあさじなみうさぎあまりようもよう 火事装束 紺麻地波兎雨龍模様 江戸時代・19世紀 アンリー夫人寄贈</p>	<p>火から身を守る縁起を担ぎ、波に兎、雨龍など、水を呼ぶ模様をデザインした、武家女性用の火事装束です。</p>
<p>6</p>	<p>まめうさぎまきえらでんすずりばこ 豆兎時絵螺鈿硯箱 伝永田友治作 江戸時代・19世紀</p>	<p>蓋の裏側に、兎が草の陰から顔をのぞかせた瞬間をデザインしています。兎の赤い目には珊瑚が使われています。</p>
<p>7</p>	<p>きちれい うねんれいはなし 吉例 兎の年礼噺 蓮池堂画 明治5年(1872)</p>	<p>洋装の兎が和装の鶏に年始の挨拶に伺い、多忙さを自慢気に語る場面。当時の兎ブームを伝える錦絵です。</p>

新春

創立 150 年記念 特集 戦後初のコレクション 国宝「松林図屏風」

2023 年 1 月 2 日(月・休)～15 日(日) 本館 7 室



8 国宝 しょうりんずびょうぶ 松林図屏風 長谷川等伯筆 安土桃山時代・16 世紀 東京国立博物館蔵

戦後、新憲法が公布された昭和 22 年(1947)5 月 3 日に、東京帝室博物館は皇室から国に移管され、名称が国立博物館となりました。国民の博物館となったこの年に、戦後初めて購入された作品のひとつがこの「松林図屏風」です。近年では毎年お正月に展示されて、多くの方々に親しまれています。さまざまな水墨技法によってあらわされたこの松林には、霧の晴れ間から柔らかな光が差し込んで、遠く雪山がのぞき、冷たく湿った空気が漂って、風の流れや森の清々しい香りまで実感できるでしょう。

新春

吉祥作品紹介 新年の訪れを祝して選んだ作品を展示します。

【主な展示作品】 ※掲載作品はいずれも東京国立博物館蔵



10



11



12



9	<p><small>せい か こうさいふくろうもんつぼ</small> 青花紅彩蝠雲文壺</p> <p>中国・景德鎮窯「大清乾隆年製」銘 清時代・乾隆年間 (1736～95) ～2023 年 3 月 19 日(日) 東洋館 5 室</p>	<p>青い雲の間をたくさんの赤いコウモリが飛んでいます。中国では、蝠の字が福と同じ発音になることから、蝙蝠は幸福をあらわす動物として好まれました。</p>
10	<p><small>くろらくつるかめもんちやわん</small> 黒楽鶴亀文茶碗</p> <p>仁阿弥道八作 江戸時代・19 世紀 ～2023 年 2 月 12 日(日) 本館 8 室</p>	<p>黒地に白で、外側に立鶴、内側に亀をあらわし、ふたつあわせて長寿を寿ぐ「鶴亀」の吉祥文様が成立しています。</p>
11	<p><small>ふりそで うこんいろりん す じ ぼ たんちばなあみ も よう</small> 振袖 鬱金色綸子地牡丹 橘 網模様</p> <p>江戸時代・18 世紀 旧久留米藩藩士家伝来 2023 年 1 月 2 日(月・休)～ 2 月 26 日(日) 本館 10 室</p>	<p>日本の吉祥模様である橘と、中国の吉祥模様である牡丹の花を、1 度に咲かせた立木模様には、長寿と富への願いが込められています。</p>
12	<p><small>めいしよえ どひやつけい</small> 名所江戸百景・するかてふ</p> <p>歌川広重筆 江戸時代・安政 3 年(1856) 三谷てい氏寄贈 2023 年 1 月 2 日(月・休)～1 月 29 日(日) 本館 10 室</p>	<p>描かれている越後屋は、現在の日本橋三越と、三井記念美術館のある三井本館です。</p>

新春限定！ プレゼント等情報

■いけばな 1月2日(月・休)～1月15日(日) 正門

池坊 蔵重伸氏

■TNM & TOPPAN ミュージアムシアターよりプレゼント 1月2日(月・休)・3日(火)

VR 作品「鳥獣戯画 超入門！」を鑑賞された方に、次回以降お使いいただける鑑賞チケット引換券（有効期限：2023年1月4日〈水〉～6月30日〈金〉）をプレゼントします。※鑑賞には別途料金および当日の予約が必要です。

■ミュージアムショップよりプレゼント 1月2日(月・休)・3日(火)

当館の全ミュージアムショップで合計3,000円（税込）以上お買い上げのお客様に、ミュージアムショップのグッズをプレゼントします（両日ともなくなり次第終了。当館の全ミュージアムショップでのお買い物が対象、引き渡しは本館ミュージアムショップでのみ対応）。

■美術図書バーゲンセール 1月2日(月・休)・3日(火)

（本館ミュージアムショップのみ対象）

■ホテルオークラレストラン ゆりの木で割引 1月2日(月・休)・3日(火)

ゆりの木で5,000円（税込）以上ご利用のお客様は、お会計から10%割引します。

■寛永寺根本中堂特別参拝 1月2日(月・休)・3日(火) 10:00～15:00

根本中堂、四天王像（台東区登録文化財）などを公開します。

■1月のキッズデー限定配布！ 「博物館に初もうで」ワークシート

特集「博物館に初もうで 兎にも角にもうさぎ年」をはじめ、お正月の展示を楽しむためのワークシートを、2023年1月22日（日）のキッズデー限定で、小学生以下のお子様先着300名に配布します（本館地下みどりのライオンにて配布。なくなり次第終了）。ウェブサイトからダウンロードもできます（12月中掲載予定）。

※混雑緩和のため、例年1月2日、3日に実施していたカレンダーの配布および先着順の特典はございません。

奈良の大寺の至宝を東京で大公開

特別企画「大安寺の仏像」

2023年1月2日(月・休)～3月19日(日) 本館11室

奈良市に位置する大安寺は、国家によって造営された日本最初の国立寺院で、現存作例が少ない奈良時代の木彫の仏像群が伝わります。これらの仏像のほか、大安寺出土の瓦(当館所蔵)などもあわせて展示し、日本仏教の源流ともいべき大安寺の歴史を紹介します。

詳細は、当館ウェブサイト>プレス向け情報>プレスリリースのページをご覧ください。

【来館案内】

開館時間：9時30分～17時 ※入館は閉館の30分前まで

休館日：月曜日、1月10日(火) ※2023年1月2日(月・休)、1月9日(月・祝)は開館

観覧料：一般1,000円、大学生500円

※高校生以下および満 18 歳未満、満 70 歳以上の方は無料。入館の際に年齢のわかるものをご提示ください。

※障がい者とその介護者 1 名は無料。入館の際に障がい者手帳等をご提示ください。

※有料イベント等は別途料金が必要です。

※会期・開館日・開館時間・展示作品・展示期間・入館方法等については、今後の諸事情により変更する場合がありますので、当館ウェブサイトでご確認ください。

交通:JR 上野駅公園口、鶯谷駅南口から徒歩 10 分 東京メトロ上野駅・根津駅、京成電鉄京成上野駅から徒歩 15 分

《お問合せ》

本リリースの内容、またはご取材に関するお問合せ:東京国立博物館 広報室 (担当:小島)

TEL: 03-3822-1111(代) FAX: 03-3822-2081 E-mail: pr_tnm@nich.go.jp